

# Newsletter

JAPAN SOCIETY OF EDUCATIONAL INFORMATION

日本教育情報学会

NO.196 2026.3.1

日本教育情報学会 運営本部事務局

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘 4 丁目 698-1

大阪教育大学 理数情報教育系 次世代教育部門 若杉研究室

E-mail: [jsei@jsei.jp](mailto:jsei@jsei.jp) <http://jsei.jp/home/>

## 第 42 回年会 未来の航路を照らす学びとデジタルのレゾナンス

2026 年 8 月 29 日・30 日 鳴門教育大学

生成 AI の浸透は、私たちの学びや思考のあり方に大きな変化をもたらしています。言葉の生成にとどまらず、画像や音楽など多様な表現の創出を通じて、テクノロジーは人間の知的活動と深く結びつき、新たな創造や探究の形を生み出しています。こうした変化の中で問われているのは、技術の導入や効率化にとどまらず、人とデジタルがいかに響き合い、共に新しい知を創り出していくかということです。

本年会のテーマ「未来の航路を照らす学びとデジタルのレゾナンス」は、まさにその問いに向き合うものです。AI やデータ、ネットワーク技術の発展は、教育の在り方にも多様な影響を与えていますが、どれほど環境が変わっても、「人が学ぶ」という営みの本質は変わりません。むしろ、テクノロジーの進展によって、学びの本質がいかに拡張され、深められていくのかを見極めることこそ、今の時代における教育情報学の重要な課題といえるでしょう。

「レゾナンス（共鳴）」という言葉が示すように、教育の現場には多様な波が存在します。理論と実践、研究と教育、技術と人間といったように、それぞれの立場や経験、方法が響き合うことで、新たな知の流れが生まれることが期待できます。本年会では、その共鳴の場を通して、教育の未来を見据え、次の航路を描くための議論を深めてまいりたいと考えております。

本会の開催地である鳴門は、潮が出会い、渦を巻きながら新たな流れを生み出す海として知られています。この地において、多様な知と実践が交わり、新しい学びの潮流が生まれることを願っております。多くの皆様のご参加とご発表を、心よりお待ち申し上げます。

第 42 回年会実行委員長 阪東 哲也（鳴門教育大学）

## 開催概要

- ・開催日：2026年8月29日（土）・30日（日）
- ・会場：鳴門教育大学  
〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島 748  
<https://www.naruto-u.ac.jp>
- ・事務局：日本教育情報学会第42回年会実行委員会  
〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島 748 ・  
鳴門教育大学 教師のためのAI・DS研究開発センター 阪東研究室
- ・主催：日本教育情報学会
- ・後援：徳島県教育委員会、鳴門市教育委員会（いずれも申請予定）
- ・年会ウェブページ：<http://jsei-nenkai.jp/>

## 開催内容・時程

1日目	8月29日（土）	2日目	8月30日（日）
9:00～	受付	9:00～	受付
9:30～12:00	課題研究発表	9:30～12:00	課題研究発表 一般研究発表
12:00～13:00	昼食・休憩 理事会・評議員会	12:00～13:00	昼食・休憩
13:15～13:45	総会・学会賞表彰式	13:00～16:00	一般研究発表 一般研究発表(オンライン)
13:45～14:15	研究会活動報告		
14:30～15:30	基調講演		
15:45～17:45	シンポジウム		
18:00～	懇親会		

※上記は現時点の予定です。変更が生じる場合がありますので、次号ニューズレターおよび年会ウェブページでご確認ください。

## 開催方式

- ・対面での発表方式を予定しています。ただし、一部についてオンライン方式で実施することを検討中です。
- ・懇親会の詳細については、次号のニューズレター刊行にてお知らせします。

**【1】基調講演（8月29日（土）14:30～15:30）**

**【演題】「学校 Ver.3.0」時代の教師像と教員養成教育の刷新**

—カリキュラム・教育 DX・学修環境の一体的改革による学びの再構築—

**講演：梅津 正美（鳴門教育大学）**

**司会：長井 映雄（鳴門教育大学）**

**【趣旨】**

四国の教員養成を担う国立大学として、鳴門教育大学は、「主体的に学び続ける教師の育成」を理念に掲げ、教員養成教育の在り方そのものを問い直す取り組みを進めてきました。近年、教育を取り巻く環境は大きく変化し、デジタル技術の進展や学習観の転換を背景に、学校は「学校 Ver. 3.0」とも呼ばれる新たな段階へと移行しつつあります。こうした時代において教師には、知識や技能を伝達する役割にとどまらず、学びを再構築し、学習環境を設計し続ける存在としての力量が求められています。そのためには、教職課程におけるカリキュラムの再編、教育 DX の推進、学修環境の整備を個別に進めるのではなく、一体的に捉え直すことが不可欠です。

本講演では、鳴門教育大学における教員養成教育の取り組みをもとに、「学校 Ver. 3.0」時代にふさわしい教師像を展望するとともに、カリキュラム・教育 DX・学修環境の一体的改革による学びの再構築について考察します。

## 【2】シンポジウム（8月29日（土）15:45～17:45）

### 【テーマ】 未来の航路を照らす学びとデジタルのレゾナンス

#### 【趣旨】

生成 AI などのテクノロジーが急速に浸透する今、その可能性を活かしつつ人間性といかに調和させるかは、未来の教育の航路を定める重要な課題といえます。本シンポジウムでは、「未来の航路を照らす学びとデジタルのレゾナンス」を共通テーマとして、近未来の教員養成、未来づくり志向の教育実践、国際的な教育研究の動向、初等中等教育における情報教育 ～「道具」から「思考の武器」へ～について話題提供を行います。これら四つの視点を、未来へ向かう航路を照らす灯台として位置づけ、それぞれの灯台が示す知見を重ね合わせることで、生成 AI 時代における教育の方向性を描き出すことを目指します。

パネリスト：藤原 伸彦（鳴門教育大学）：近未来の教員養成

田中 茂道（小学校教諭）：未来づくり志向の教育実践

カーロ・シャーリン（鳴門教育大学）：国際的な教育研究の動向

小熊 良一（群馬大学）：初等中等教育における情報教育

～「道具」から「思考の武器」へ～

コーディネーター：長井 映雄（鳴門教育大学）

### 【3】課題研究（8月29日（土）・30日（日）午前中）

各研究会が担当する課題研究の概要を掲載します。なお、課題研究の発表申込については【5】を参照してください。

#### ■教育資料研究会

テーマ： 学びの可能性を高め教育の質を向上させる教育資料のあり方

コーディネーター：成瀬喜則（富山大学）、齋藤陽子（岐阜女子大学）

##### 【趣旨】

テクノロジーの発達によって教育は大きく変化しており、児童生徒はデジタル技術を効果的に活用しながら、互いに学び合い、成長していく姿が見られるようになっている。教師も、生成 AI やデジタルデータをどのように活用して教育に生かしていくかを考えながら、これまでの「学び」と未来の「学びの可能性」を意識しながら教育方法について考えていくことが必要であり、教育に関する積極的な姿勢は教育資料のあり方にも影響を与えていくと考えられる。

本研究会では、学びと教育資料の関係について、理論と実践の両面から研究を行っていきたい。できるだけ幅広い分野の発表を歓迎したい。

#### ■特別支援教育 AT 研究会

テーマ：多様なニーズを支える AT と共に描く学びの未来地図

コーディネーター：小川修史（兵庫教育大学）、新谷洋介（金沢星稜大学）

##### 【趣旨】

生成 AI の登場は、特別な支援を必要とする子どもたちの学びにも大きな変化をもたらしています。AI による文章や画像の生成、音声や映像のリアルタイム変換といった技術は、子どもたち一人ひとりの特性や表現の可能性を広げ、より柔軟で創造的な支援を実現しつつあります。AT（Assistive Technology）は、従来の「支援のための道具」から、学びを共に創るパートナーへと変化し、生成 AI との連携によって、その役割はさらに拡張されています。本分科会では、生成 AI を含めた AT と、教育現場における実践がどのように響き合い、多様なニーズに応える学びの未来を形づくっていくのかを探ります。AI を活用した個別最適な支援や教材生成、アクセシビリティの向上、学習意欲を引き出す支援など、最新の技術動向と実践研究を共有しながら、人とデジタルが共に奏でる新しい教育のかたちを考えます。そして、AT が「自らの航路を描くための灯」となる事を目指し、本研究会は可能性を模索する場にしたいと考えています。

## ■プログラミング教育研究会

テーマ：次期学習指導要領を踏まえたプログラミング教育の在り方

コーディネーター：小熊良一（群馬大学）、横山駿也（飯能市立飯能第一中学校）

### 【趣旨】

本研究会はこれまで、プログラミング教育の実践知の収集とエビデンスの確立に尽力してまいりました。これらを踏まえ、我々が次に目指すべきは、次期学習指導要領を見据えたプログラミング教育の新たな価値創出です。情報活用能力の育成から教科横断的な学びへの昇華まで、プログラミング教育はどうあるべきか。基礎研究・実践研究を問わず意欲的な提案を募集し、次代の教育課程におけるプログラミング教育のこれからの方向性を本会から発信していきたいと考えています。

## ■教育技術研究会

テーマ：テクノロジーの進展と教育技術の活用

コーディネーター：佐藤典子（甲子園大学）、治京玉記（大阪人間科学大学）

### 【趣旨】

近年、急速にテクノロジーが進展しています。急速なテクノロジーの進展は、教育の現場において、理論と実践、研究と教育、技術と人間が互いに影響することにつながり、新たな知の流れが生まれることが期待されています。AI やデータ、ネットワーク技術を教育技術としてどのように活用していくのか、何が課題なのか、課題の解消を図るためにはどのようなことが必要か、教育技術に注目して討議していきたいと考えております。学校での学びがどのような考えのもとで、どのようなものになるべきか、幅広い校種、教科における授業技術、教材開発などについて検討し、共鳴の場となり、新しい学びの潮流につながっていくことを願っております。

## ■グローバル教育研究会

テーマ： グローバル教育における国際連携と新たな知の創出

－近未来社会を見据えたグローバル人材育成と生成 AI の活用の可能性－

コーディネーター：清水義彦（富山県立大学）、陳那森（関西国際大学）

### 【趣旨】

グローバル教育研究会（旧：国際交流研究会）は、

1. グローバル人材育成および教育手法の研究とその実践
2. 日本国内における留学生教育や海外からの人材育成
3. JSEI における海外との学術交流やその推進に伴う諸課題の解決策の検討

を進めている。国際共同プロジェクトを視野に入れ、国内外の教育機関、研究機関、企業との連携を重視するとともに、各分野の専門家が協働して課題に取り組むためのプラットフォーム構築を目指している。本研究会では、デジタル技術と人間性が「響き合い」、国際的な課題解決や新しい知を「共に創り出す」ための方策を探る視点を取り入れ、国内外のグローバル人材育成の研究、教育実践、連携の在り方を多角的に検討する。ひとり一人の若者に適した効果的な学びの環境を提供し、未来のグローバルリーダーや専門家に必要なスキル・知識・マインドが獲得できる環境整備、手段を模索する。例年通り、海外からの発表も可能なオンライン開催を予定しており、国や地域の枠を超えた活発な議論を通して、持続可能な国際交流と教育革新の実現を目指す。

## ■ICT 活用研究会

テーマ： ICT の力で拓く主体的・対話的で深い学びの未来

－人とデジタルが響きあう学びの創造－

コーディネーター：石出勉（東京女子体育大学）、鍋谷正尉（渋谷区立神南小学校）

### 【趣旨】

生成 AI やデジタル技術が学びの現場に深く浸透する中で、単なる ICT 活用にとどまらず、人とテクノロジーの共鳴（レゾナンス）を通して、新しい知の創出と学びの在り方を探求していくことが求められます。ICT を基盤とした教育の実践と開発を通して、「主体的・対話的で深い学び」を支える環境や教材、カリキュラムの在り方を議論・検討を行います。AI やデータ活用、プログラミング教育、STEAM 学習、デジタルシティズンシップなどの多様な取り組みを通して、これからの教育の在り方について検討することを目的とします。以下関連するテーマを示す。

1. 多様性を考慮して全ての学習者に響く教育支援システム・教材の開発
2. 1人1台の環境を活かした学校・授業デザインの研究
3. ICT 活用を促進する学習環境と教材開発
4. バイブコーディングによる個別最適化された教材の開発
5. プログラミング的思考、創造力、AI リテラシーをはぐくむ教育実践
6. PBL・STEAM によるライフスキル（非認知能力）育成のカリキュラム開発
7. デジタルシティズンシップ教育の推進
8. 生涯学習における ICT 活用
9. 時間と空間を超える遠隔教育システムの開発と活用

## ■IR 活用研究会

テーマ： AI とともに歩む IR：多様な学内活動と響き合うデータ活用の未来  
コーディネーター：白鳥成彦（東京都市大学）、今井匠太郎（東京科学大学）

### 【趣旨】

生成 AI の発展により、専門的なスキルがなくても高度なデータ分析が可能となり、大学内の多様な活動におけるエビデンス活用の可能性が大きく広がっています。本研究会では、教学・学生支援・キャリア支援・FD・研究支援など、大学の各機能と IR 活動が AI を介してどのように“共鳴”しうるのかを探ります。AI がもたらす分析の民主化を踏まえ、IR はどのように意思決定を支え、組織横断的な知の循環を生み出すのか。IR の新たな役割と大学運営の未来を展望します。

## ■「AI と教育」研究会

テーマ：未来につなぐ AI とウェルビーイング  
コーディネーター：加納寛子（山形大学）、野末 俊比古（青山学院大学）

### 【趣旨】

本課題研究は「未来につなぐ AI とウェルビーイング」をテーマとし、AI を学習者・教員・学校組織・地域の幸福と成長につなげる道筋を探究します。初等中等から高等・社会教育まで、アクセシビリティ、孤立・孤独の緩和、自己調整学習、教員業務の質と負担、評価・測定、支援技術、心理的サポート等を対象に、成功例のみならず課題や失敗も共有し、再現可能な指標・手順・運用プロトコルの共通基盤化をめざします。また、幸福感や学習の自己調整、孤立・孤独の緩和、働きがい・学びがい、アクセシビリティ向上に有益な AI 活用方法など、多様なアウトカムを対象に、データドリブン の評価指標設計、質的・量的・混合研究法、ELSI（倫理・法・社会）とデータガバナンスなど統合的に議論します。

## 【5】研究発表申込募集（課題研究・一般研究）

### (1) 研究発表申込資格

- ・第1発表者（当日発表を行う方）は、会員資格（正会員・学生会員）であることが必要となります。非会員の方は、発表申込までに学会運営本部事務局（jsei@jsei.jp）に申込み、入会登録手続きを行ってください。
- ・会員番号をお忘れの方は、郵送物の宛名ラベルに印字してある4ケタの数字が会員番号ですので、ご参照ください。なお、研究発表の申込みや発表原稿の提出時にも、会員番号が必要となります。

### (2) 発表内容について

- ・「教育情報に関する研究」であれば特に内容は問いません。「教育情報」には「教育に関する情報」と「情報に関する教育」の両方を含みます。
- ・一般研究発表では、希望のセッションを下記より選択してください（第二希望まで選択）。ただし、発表申込状況によっては、希望に添えない場合がございます。
  - ・情報教育      ・教育方法      ・学習評価      ・教育実践
  - ・教科教育      ・教材開発      ・その他
  - ・オンライン発表（2日目午後）※オンライン発表以外は対面の予定
- ・キーワードは下記より2～3語を選択してください。キーワードは5語以内とし、下記より2～3語を選択し、それ以外は自由に設定してください。

IR、アクティブ・ラーニング、ESD、eラーニング、インターネット、AI、遠隔学習、学習管理、学習コンテンツ、学習支援、学習メディア、可視化、学校経営、カリキュラム開発、企業内教育、教育サービス、教育施策、教育情報システム、教育データ、教育評価、教育方法、教科教育、教師教育、高等教育、国際開発、社会教育、生涯学習、情報教育、情報検索、情報サービス、情報資源、情報処理教育、情報デザイン、情報文化、情報リテラシー、情報倫理、職能開発、初等教育、専門教育、地域連携、知的財産、中等教育、DX、データサイエンス、データベース、デジタルアーカイブ、デジタルコンテンツ、特別支援教育、図書館情報学、ネットワーク、ビッグデータ、ヒューマンインターフェース、プライバシー保護、プログラミング、メタデータ、メディア活用、メディアリテラシー、幼児教育

（五十音順）

### (3) 発表申込方法に関するお願い

#### 1. 発表申込方法

- ・第42回年会ウェブサイト（<http://jsei-nenkai.jp/>）の各種申込みの「発表申込フォーム」から、必要事項を入力していただき、お申込みください。
- ・年会ウェブサイト以外での受け付けおよび申込期限後のお申込みは受け付けることができませんのでご注意ください。
- ・申込後の申込内容変更については、年会ウェブサイトのお問い合わせからご連絡をお願いします。

#### 2. 発表申込期間

2026年3月1日（日）～4月21日（火）

3. 申込完了メール
  - ・ウェブ上の「発表申込フォーム」からのお申込みが完了すると、お申込み時のメールアドレスへ「発表申込み完了メール」が送信されます。
  - ・申込完了後は「発表申込み完了メール」が届いていることをご確認ください。
4. 発表採否通知
  - ・5月中旬（予定）に発表の採否をメールで連絡します。
5. 原稿作成
  - ・発表採択の方には、原稿の執筆要項（Word形式ファイル）をお送りします。
  - ・論文の原稿枚数は、課題研究は4枚、一般研究は2枚とします。
6. 原稿提出期間  
2026年6月1日（月）～7月5日（日）
7. 課題研究に関する注意事項
  - ・申込み時に、各研究会のテーマに沿って研究発表題目をつけてください。
  - ・課題研究発表は、各研究会で調整し、テーマごとに担当コーディネーターが検討し、審査します。その結果、発表「否」となる場合もあることをあらかじめご了承ください。
  - ・課題研究として発表できない場合でも、課題研究分を一般研究発表として発表していただくことがあります。
  - ・第1発表者としての課題研究発表は、1人につき1件のみとします。ただし、年会実行委員会から特に依頼された場合は、この限りではありません。
8. 一般研究に関する注意事項
  - ・第1発表者としての一般研究発表は、1人につき1件のみとします。
  - ・発表等の時間は、発表10分、質疑4分、交代1分です。
  - ・一般発表は学会員のみ発表可能です。
9. 発表申込フォームの書き方
  - ・共同研究者は何人でもかまいません。
  - ・概要はなるべく具体的に書いてください。
  - ・キーワードは5語以内とします。上記(2)のキーワードから2～3語を選択し、それ以外は自由に設定してください。
  - ・発表者の方へは、発表申込登録内容に関して問い合わせる場合がありますので、連絡先の変更が生じた際は、年会事務局までご連絡をお願いいたします。
10. 原稿提出フォームの書き方
  - ・原稿は、執筆要項に従って作成してください。
  - ・PDF形式に変換後、原稿提出フォームからご提出ください。
11. 参加フォーム
  - ・参加申込みの際には、参加費などの振込完了後、参加申込フォームより参加手続きを行ってください。
12. 発表会場
  - ・会場で使用できる機器はプロジェクターのみです。
  - ・パソコンは各自で持参してください。

## 【6】参加方法

### (1) 参加申込期間・方法

- ・申込期間：6月1日(月)～8月2日(日)
- ・申込方法：次号ニューズレターで案内します

### (2) 参加費用

- ・参加費、年会論文集代は下記のとおりです。

会員事前申込

参加費 3,000 円      論文集費 4,000 円      懇親会費 6,000 円

会員（当日）・非会員

参加費 4,000 円      論文集費 4,000 円      懇親会費 6,000 円

学生会員・後援関係教職員

参加費 無料（※）      論文集費 4,000 円      懇親会費 6,000 円

（※学生会員・後援関係教職員であっても発表者は参加費が必要です）

- ・支払方法につきましては、次号ニューズレターで案内します。

### (3) 論文集の郵送申込について（年会に参加されない方）

- ・年会に参加されない方で、論文集を購入希望の場合は、論文集代をお振り込みのうえ、年会ウェブサイト内の「参加申込」にあります「論文集郵送申込フォーム」よりお申込みください。
- ・年会終了後に論文集を送付します。
- ・論文集：4,500 円（郵送費等を含む）

### (4) 後援関係の皆様

- ・後援をいただいた教育委員会所属の教職員の参加費は無料とします。ただし、論文集を必要とされる方は、論文集費が必要です。
- ・新規の方の参加を歓迎します。

## 【7】 年会開催までのスケジュール(予定)

- ・ 発表申込期間 2026年3月1日(日)～4月21日(火)
- ・ 発表決定通知 2026年5月中旬頃
- ・ 原稿提出期間 2026年6月1日(月)～7月5日(日)
- ・ 参加申込期間 2026年6月1日(月)～8月2日(日)
- ・ 論文集申込期間 同上

## 【8】 広告掲載(協賛) 募集

年会論文集用の広告を募集いたします。広告掲載(協賛)をいただいた企業の方には、当日会場内ブースにて、製品紹介および展示等をしていただくことが可能です。企業のPRや情報交換の場として大いにご活用いただければ幸いです。

詳細は以下の通りとなっております。会員の皆さまにおかれましてはお知り合いの関連企業にお声掛け頂き、多くの企業の方にご参加いただけるよう、ご紹介のほどよろしくお願いいたします。

広告掲載申込方法などは年会ウェブページにて告知します。その他に、ご質問がありましたら、年会ウェブページのお問い合わせからお願いいたします。

協賛(料金 ¥40,000)		
内容	論文集掲載広告(広告1)	
・ 展示(1ブース) ・ 広告1(論文集掲載) ・ 広告2(フライヤー配布)	色	1色(モノクロ)
	貢(寸法)	1/1貢(天地240mm×左右160mm)
	形式	Word, JPEG

### 日本教育情報学会 運営本部事務局

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4丁目698-1  
大阪教育大学 理数情報教育系 次世代教育部門 若杉研究室  
E-mail: [jsei@jsei.jp](mailto:jsei@jsei.jp) HP: <http://jsei.jp/home/>